

触れる・学ぶ・参加・協力・支援

－しまくとうばとの関わり方－

小中学生向け

触れる・学ぶ

●しまくとうばオリジナルアニメを見て、楽しく触れてみる(Youtubeで公開)

●しまくとうばEラーニング:スマホやパソコンで動画を見て基礎を学ぶ

●1日1ことばチャレンジ:あいさつ(はいさい／はいたい)など、まず1語から。

●聞いて覚える:おじい・おばあとしまくとうばで会話する。

参加する

●しまくとうば語やびら大会を見学:発表を見てみよう。挑戦してみるのもOK

●県民大会に参加:U-18島唄者コンテストやしまくとうば語やびら大会の本選を見に行こう

●講座案内:しまくとうば普及センターへ問い合わせよう
ご希望の地域のしまくとうばなどにあわせて、参加できる講座やイベントをご紹介してもらえよ
TEL:098-988-0411

高校生以上向け

学ぶ ー基礎から実践へー

●しまくとうばEラーニング:基礎～応用まで、地域ごとの発音も学べる。

●Webでしまくとうばテストに挑戦:学びの成果を確認しよう

参加する

●しまくとうば語やびら大会やU-18島唄者コンテストに出場して表現を磨こう

●県民大会に参加:U-18島唄者コンテストやしまくとうば語やびら大会の本選を見に行こう

●県やセンターが主催する講座・講演・シンポジウムに積極的に参加しよう[情報は「しまくとうばナビ」で検索]

協力・支援

●講師養成講座(16歳以上):修了後は人材バンク登録→学校・地域で指導補助へ。

「しまくとうば」って何ですか？

2006年(平成18年)に沖縄県議会で「しまくとうばの日に関する条例」が制定されました。「しまくとうば」とは何でしょう。『沖縄語辞典』によれば、「シマ」は「集落」と「故郷」という意味があります。また、「クトゥバ」は「言葉」の意味があります。

「しまくとうば」とは「故郷の言葉」を表します。県議会は沖縄県民にそれぞれの「故郷の言葉」を大切にしようと訴えたのです。

【しまくとうばの日に関する条例】

第1条 県内各地域において世代を越えて受け継がれてきたしまくとうばは、本県文化の基層であり、しまくとうばを次世代へ継承していくことが重要であることにかんがみ、県民のしまくとうばに対する関心と理解を深め、もってしまくとうばの普及の促進を図るため、しまくとうばの日を設ける。

関連リンク



しまくとうばナビ



しまくとうばアニメ
(YouTube)

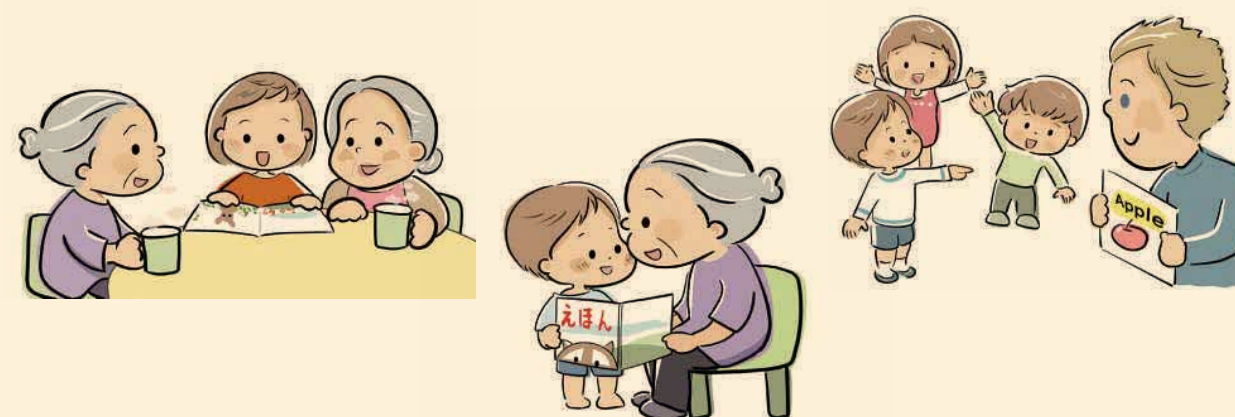


Eラーニング

沖縄県文化観光スポーツ部
文化振興課 しまくとうば普及推進室

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2(県庁9階) TEL:098-894-7882

発行:令和8年(2026年)1月



ウチナーグチと「しまくとうば」は、同じ意味ですか？

同じではありません。「しまくとうば」が、宮古諸島や八重山諸島を含む県内各地域の言葉の総称であるのに対し、ウチナーグチは、沖縄本島やその周辺離島の言葉をいいます。ウチナーグチは、しまくとうばに含まれる言葉の一つです。

「しまくとうば」は、「琉球諸語」(または「琉球語」)に言い換えてもよいですか？

「しまくとうば」と「琉球諸語」は、包含する地域が異なります。一般的に「琉球諸語」は、沖縄県の八重山諸島から鹿児島県の奄美諸島までの島々で話されてきた言葉の総称として使われますが、北大東村と南大東村の開拓のために八丈島から来た人たちが話してきた八丈語系統の言葉は含みません。これに対し、「しまくとうば」は、八丈語系統の言葉を含む沖縄「県内」で受け継がれてきた言葉の総称です。

「しまくとうば」は、日本語の方言ですか？それとも、日本語とは別の言語ですか？

言語と方言を区別する基準は、様々な議論があり、明確に定まっていません。日本政府も「言語及び方言の用語は、様々な意味を有するものであり、一概に答えることは困難」としていません。こうした状況の中、県は「しまくとうば」を用いて、各種の施策を展開しています。

ユネスコが、沖縄県内の言葉を、方言ではなく言語と認定したと聞きましたが。

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、世界中の言葉の消滅危機について調査研究を行い、2009年(平成21年)に『Atlas of the World's Languages in Danger』(世界消滅危機言語地図)を発表しました。同書は、「方言(dialect)」という用語を使用せず、一律に「言語(language)」を用いています。同書が「認定」したのは、言語か方言かという区別ではなく、あくまで、沖縄県内の言葉が消滅の危機に瀕しているということです。

「ウチナーヤマトグチ」は、「しまくとうば」に含まれますか？

ウチナーヤマトグチ(またはウチナーヤマトグチ)は、明治期以降、伝統的な沖縄本島の言葉と、日本各地の言葉との「接触」によって生じたとされています。ウチナーヤマトグチは「沖縄的日本語」であり、ウチナーグチ(沖縄語)でも琉球諸語でもありません。名称をウチナーグチに言い換えたものです。宮古や八重山にも類似の接触言語がありますが、それらはウチナーヤマトグチとはいいません。ウチナーヤマトグチがある一定の地域において、世代を超えて受け継がれているのかどうかについては、現時点ではわかっていません。また、消滅の危機にあるということも言われていません。このため、県のこれまでの「しまくとうば」関係施策では、ウチナーヤマトグチを取り扱ったことはありません。

なぜ、しまくとうばを大切にしないといけないの？

しまくとうばは、地域の伝統的な生活や習俗、祭祀や豊年祭など地域の文化と深く結びついています。

しまくとうばがなくなってしまうと、しまくとうば特有の表現がなくなってしまうだけでなく、先人たちが築いてきた知恵や、地域に受け継がれてきた伝統的な精神文化も喪失してしまいます。

また、出身地域のしまくとうばを耳にし郷愁を覚えたりするなど、しまくとうばはアイデンティティーのよりどころともなります。

しまくとうばは、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものです。



子どもたちが「しまくとうば」を学ぶことで期待される効果

子どもたちが「しまくとうば」を学ぶことで、自分たちが暮らす地域の文化や歴史を深く知ることになり、地域への愛着や誇りが育まれます。

また、アクセントやイントネーション、単語が集落ごとに異なるしまくとうばの広がりを知ることで、言葉の多様性を理解し、国際社会で必要とされる他者への寛容さや、共生への態度を身につけることができます。

さらに、しまくとうば学習は、言葉の発達と習得を促し、子どもたちの言語能力を高めることが期待できます。

